

# 弟子屈町学校施設等長寿命化計画

令和2年7月

弟子屈町教育委員会



# 弟子屈町学校施設等長寿命化計画

## < 目 次 >

序 章	計画策定の背景と目的-----	1
第 1 章	学校施設の実態	
1	学校施設の運営状況・活用状況等の実態-----	4
2	児童生徒数の変化-----	5
3	学校施設の保有量-----	8
4	施設関連経費の推移 -----	10
5	学校施設の劣化状況の実態-----	11
第 2 章	学校施設整備の基本的な方針	
1	学校施設の規模・配置計画等の方針-----	20
2	改修等の基本的な方針-----	22
3	今後の維持更新コストの比較-----	24
第 3 章	長寿命化の実施計画	
1	改修等の整備水準-----	27
2	改修等の優先順位づけと実施計画-----	28
3	維持管理の項目・手法等-----	30
第 4 章	長寿命化の計画的運用方針	
1	情報基盤の整備と活用-----	31
2	推進体制等の整備等-----	31
3	フォローアップ-----	31



## 序 章 計画策定の背景と目的

### 1 背景

文部科学省では、平成 25 年 11 月に取りまとめられた国による「インフラ長寿命化計画」に基づき、所管施設等の長寿命化に向けた取組を推進するため、「インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定しました。さらに、各地方公共団体は、公共施設等総合管理計画に基づき、個別施設ごとの具体の対応方針を定める計画として、個別施設毎の長寿命化計画(個別施設計画)を策定することが求められています。

弟子屈町(以下、本町)が現在維持管理する学校教育系施設は、昭和 30 年代から整備され、全公共施設面積の約 18%<sup>\*</sup>を有しています。また、児童生徒数は近年減少傾向にあり、現在に至っています。

学校教育系施設については、これまで学校の改築のほか、耐震改修や外壁・屋根・屋上等の改修等を実施してきましたが、今後も予想される長寿命化改修や大規模な改修、建替には多額の費用が必要になると考えられ、適正な施設管理が課題となっています。

(※弟子屈町公共施設等総合管理計画より引用。平成 26 年度末現在での面積割合)

### 2 目的

弟子屈町の学校施設等については、築年数が 30 年以上経過したものが約 2 割に達しており、これら施設の老朽化や、今後の維持保全に関する方向性についての検討が求められています。

学校施設等長寿命化計画(以下、本計画)は、上記背景を踏まえ、今後の改修や更新の対応として、教育環境の質的改善も考慮しつつ、現状約 40 年程度の建替え周期を延長する長寿命化を図るなど、施設整備にかかるコストを総合的に抑制するとともに、学校施設等の全般的な効率的維持保全の実現を目的に計画を策定します。

### 3 計画期間

計画期間は令和 2(2020)年度から令和 11(2029)年度までの 10 年間とします。また、社会的情勢等を踏まえ適宜見直すものとします。

#### 4 対象施設

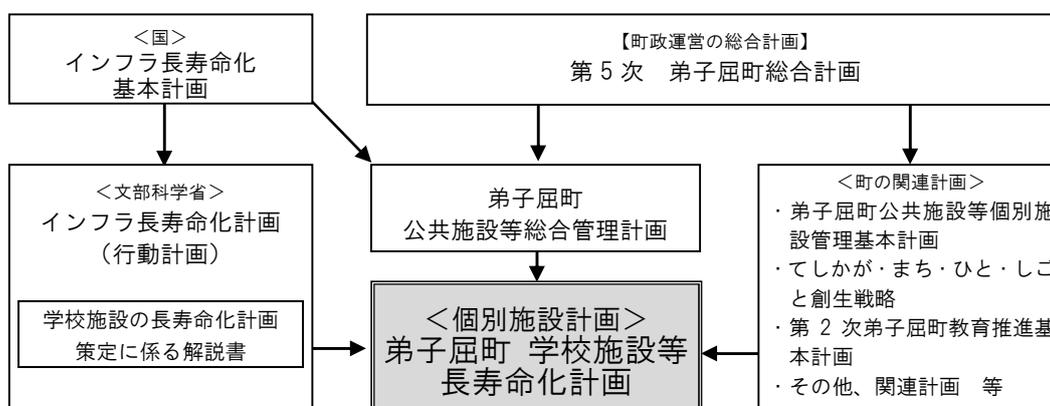
本計画の対象施設は、小学校5校、中学校2校及び学校給食センター1施設とします。学校給食センターは、弟子屈中学校と合築した施設です。なお、学校に付随する物置等や教職員住宅は含みません。

対象校		対象施設等
小学校	弟子屈小学校	校舎1、体育館
	川湯小学校	校舎1、体育館
	和琴小学校	校舎1、体育館
	美留和小学校	校舎1、体育館
	奥春別小学校	校舎1、校舎2、体育館
中学校	弟子屈中学校	校舎1、体育館
	川湯中学校	校舎1、体育館
学校給食センター		センター1

#### 5 計画の位置づけ

本計画は、総合計画をはじめとする上位計画や関連計画と整合を図りながら策定します。

図表 計画の位置づけ



## 6 学校施設のめざすべき姿

学校施設のめざすべき姿は、今後の学校施設整備の取組みにおいて実現すべき目標像となります。以下は文部科学省の諮問会議等において「安全性」「快適性」「学習活動への適応性」「環境への適応性」「地域の拠点化」の観点により示されたものですが、以下の項目を目標像の基本とし、適切な改築や改修等の施設整備を行います。

図表 学校施設の目指すべき姿（学校施設整備基本構想の在り方について H25 年 3 月）

<b>1 安全性</b>	
◆災害対策	◇地震・津波・洪水に強い学校施設 ◇防災機能を備えた学校施設
◆防犯・事故対策	◇安全で安心な学校施設
<b>2 快適性</b>	
◆快適な学習環境	◇学習能率の向上に資する快適な学習環境 ◇バリアフリーに配慮した環境 ほか
◆教職員に配慮した環境	◇教職員に配慮した空間 ◇教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要な ICT 環境 ほか
<b>3 学習活動への適応性</b>	
◆主体性を養う空間の充実	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間 ◇子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間 ◇社会性を身に付けるための空間 ほか
◆効果的・効率的な施設整備	◇習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間 ◇調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境 ◇各教科等の授業を充実させるための環境
◆言語活動の充実	◇各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間 ◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境
◆理数教育の充実	◇充実した観察・実験を行うための環境
◆運動環境の充実	◇充実した運動ができる環境
◆伝統や文化に関する教育の充実	◇伝統や文化に関する教育を行うための環境
◆外国語教育の充実	◇外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間
◆学校図書館の活用	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設 ほか
◆キャリア教育・進路指導の充実	◇充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境
◆食育の充実	◇食育のための空間
◆特別支援教育の推進	◇バリアフリーに配慮した環境 ◇自閉症、情緒障害又は ADHD 等のある児童生徒に配慮した学校施設
◆環境教育の充実	◇地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール
<b>4 環境への適応性</b>	
	◇環境を考慮した学校施設（エコスクール）
<b>5 地域の拠点化</b>	
	◇安全で安心な学校施設 ◇バリアフリーに配慮した環境 ◇地域に開かれた学校とするための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設

# 第 1 章 学校施設の実態

## 1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

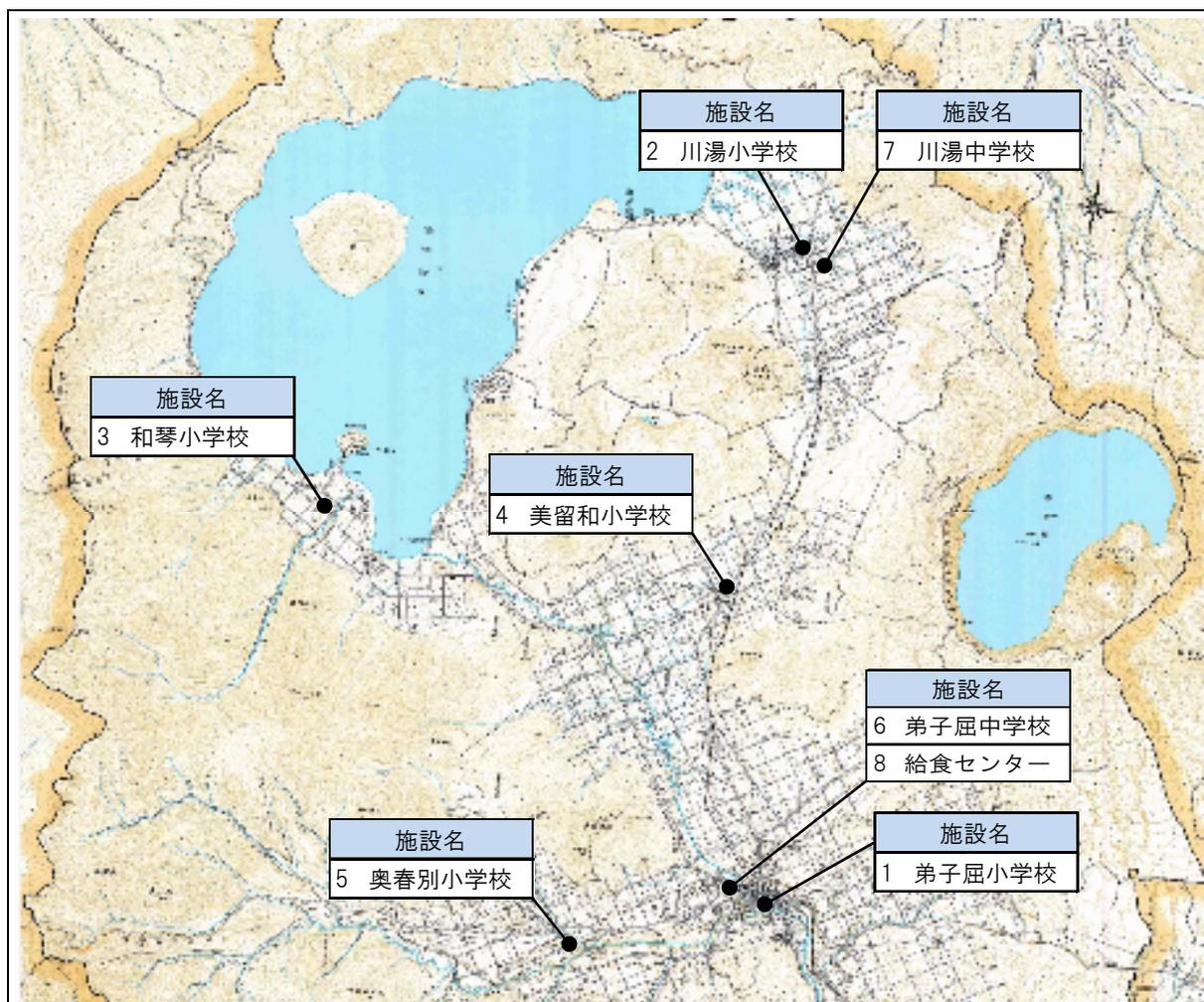
### (1) 対象施設一覧

令和 2 年（2020 年）年度現在、本町で管理する学校教育系施設は小学校 5 校、中学校 2 校となります。

図表 対象施設一覧（令和 2（2020）年 5 月 1 日現在）

対象施設	建築年月		延床面積	位置	
	校舎	体育館			
小学校	1. 弟子屈小学校	H11.11 (1999)	H11.12 (1999)	5,868 m <sup>2</sup>	弟子屈町中央 2 丁目 265 番地 1
	2. 川湯小学校	H6.10 (1994)	H7.12 (1995)	2,311 m <sup>2</sup>	弟子屈町川湯温泉 4 丁目 72 番地 4
	3. 和琴小学校	S46.12 (1971)	S61.12 (1986)	1,639 m <sup>2</sup>	弟子屈町字屈斜路 260 番地 1
	4. 美留和小学校	S63.12 (1988)	S63.12 (1988)	1,283 m <sup>2</sup>	弟子屈町字美留和 82 番地 1
	5. 奥春別小学校	S37.10 (1962)	S59.12 (1984)	1,354 m <sup>2</sup>	弟子屈町字当別 274 番地 1
中学校	6. 弟子屈中学校	H23.3 (2011)	H23.3 (2011)	4,931 m <sup>2</sup>	弟子屈町美里 1 丁目 135 番地 2
	7. 川湯中学校	H4.3 (1992)	H4.12 (1992)	2,342 m <sup>2</sup>	弟子屈町川湯温泉 7 丁目 74 番地 1
他	8. 給食センター	H23.12 (2011)		741 m <sup>2</sup>	弟子屈町美里 1 丁目 136 番地 1

図表 対象施設位置図



## 2 児童生徒数の変化

### (1) 児童生徒数の状況

本町には、小学校5校、中学校2校の合計7校の学校施設を管理していますが、令和2(2020)年5月1日現在の児童生徒数は小学校児童数276人、中学校生徒数150人、計426人となっています。

図表 児童・生徒数および学級数の現状（令和2(2020)年5月1日現在）

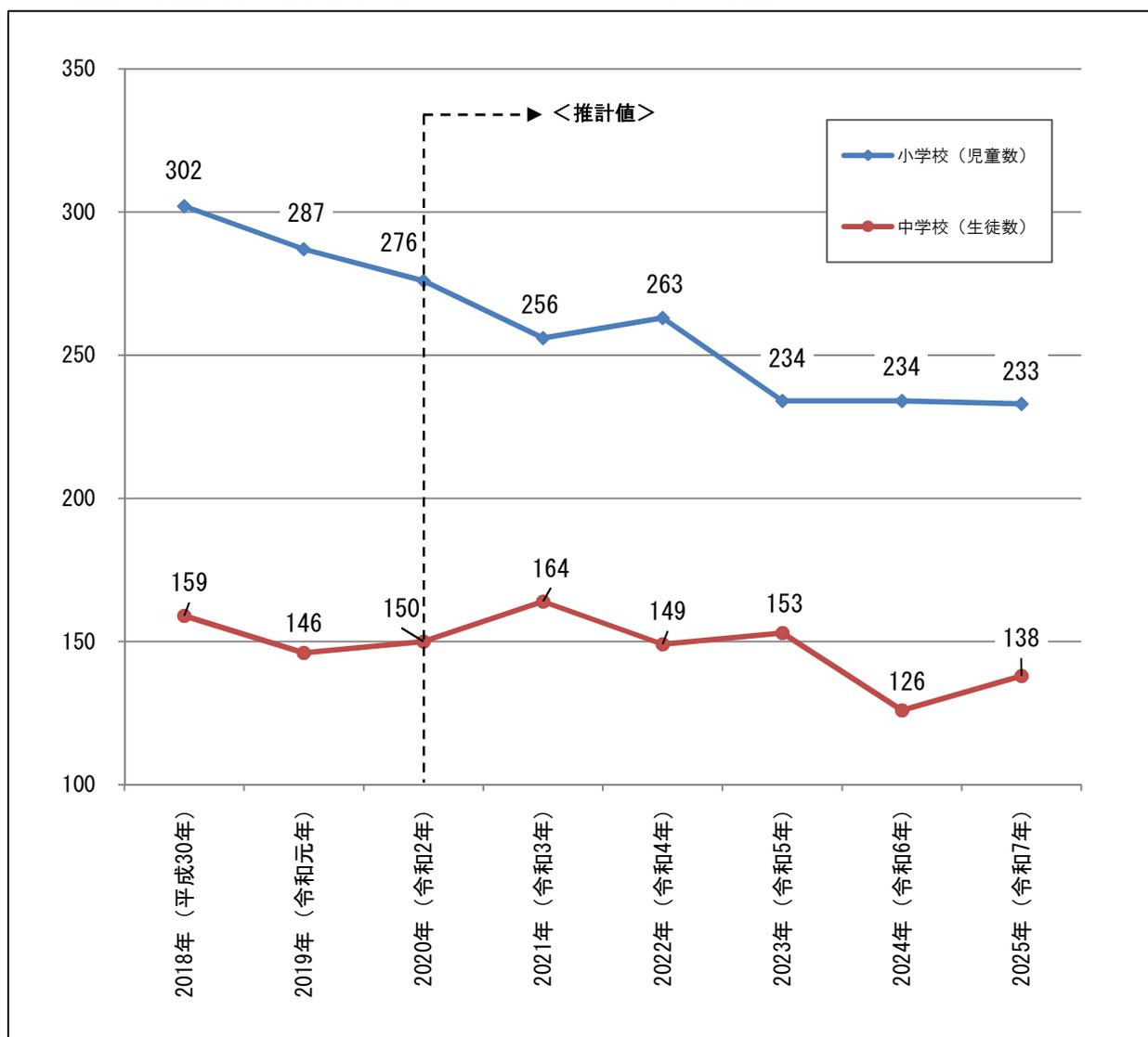
学校名等		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
小学校	1 弟子屈小学校	30	32	28	34	28	45	197
	2 川湯小学校	8	6	7	12	1	15	49
	3 和琴小学校	1		2	1	2		6
	4 美留和小学校		2		2	2	2	8
	5 奥春別小学校		5	2	5		4	16
	計	39	45	39	54	33	66	276
中学校	1 弟子屈中学校	45	43	47	-	-	-	135
	2 川湯中学校	5	5	5	-	-	-	15
	計	50	48	52	-	-	-	150
合計								426

## (2) 児童生徒数の推移と将来推計

近年の小学校児童数の推移と将来推計は令和2(2020)年の276人以降、減少傾向での推移し、令和7(2015)年度で233人になると想定されます。

同じく、中学校生徒数の推移と将来推計は、令和2(2020)年度の150人以降、多少の増減傾向で推移し、令和7(2015)年度で138人になると想定されます。

図表 児童生徒数の推移と将来推計（令和2(2020)年5月1日現在）

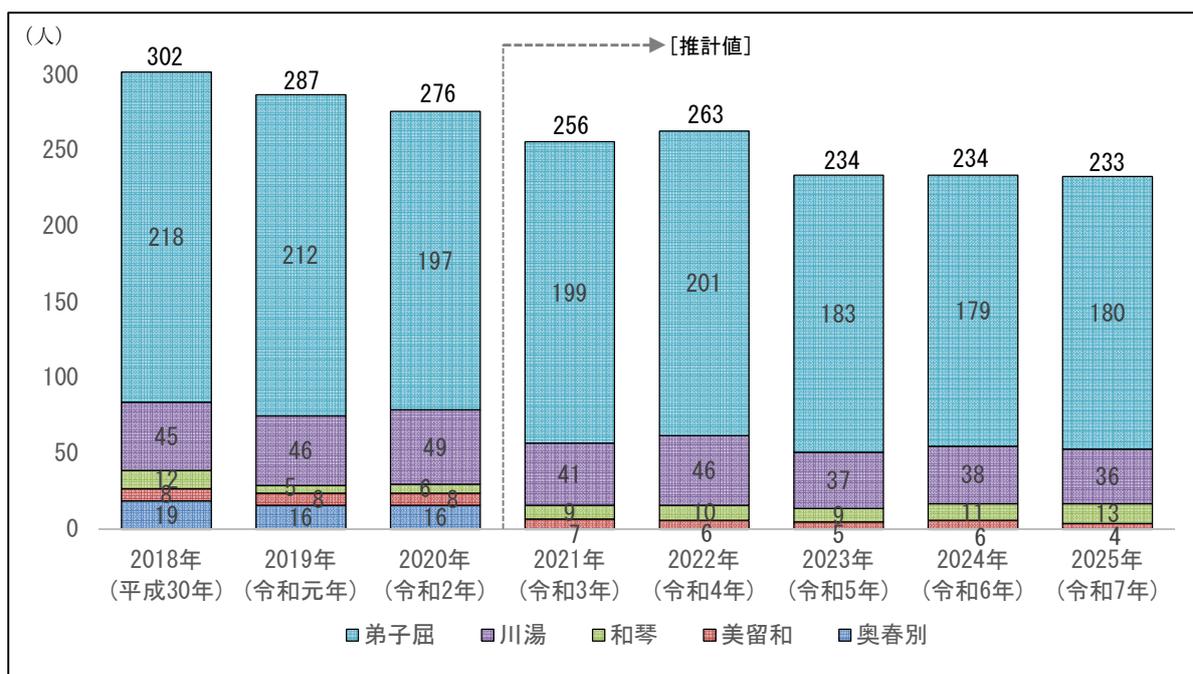


### (3) 学校ごとの児童生徒数および学級数の将来推計

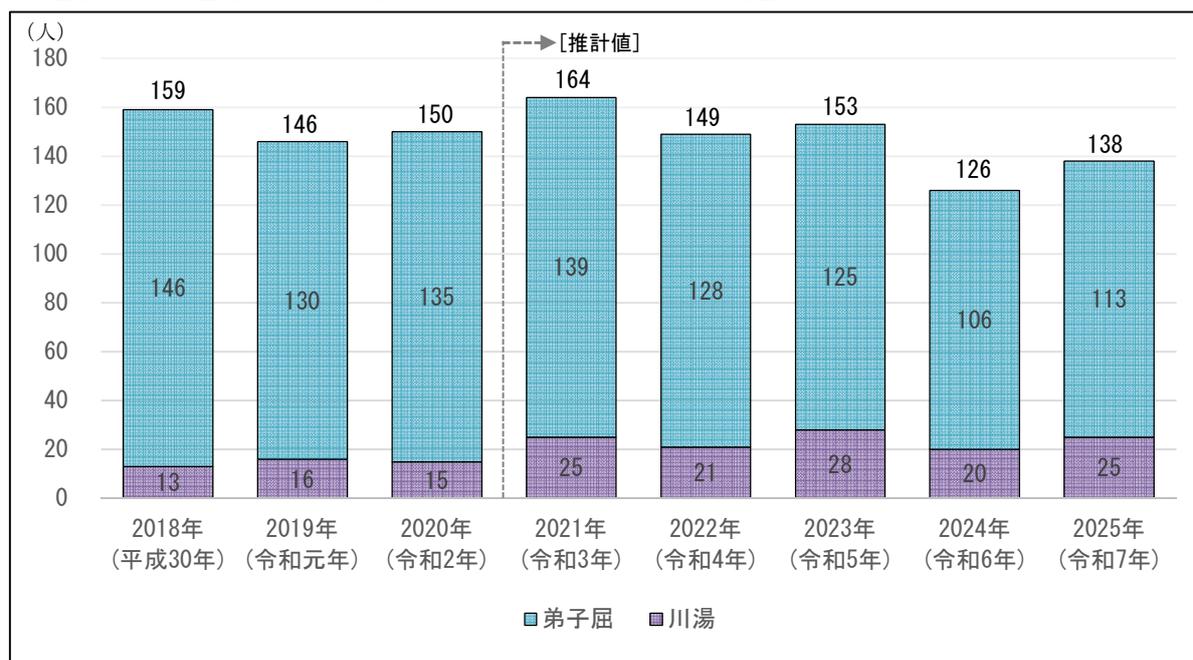
学校ごとの児童生徒数の将来推計を見ると、各校とも減少傾向となっています。なお、奥春別小学校は令和2年度で閉校予定となっています。

一方、中学校は、弟子屈中学校が減少傾向ですが、川湯中学校は当面20人台で推移すると想定されます。

図表 小学校児童数の学校別推計（令和2（2020）年5月1日現在）



図表 中学校生徒数の学校別推計（令和2（2020）年5月1日現在）



### 3 学校施設の保有量

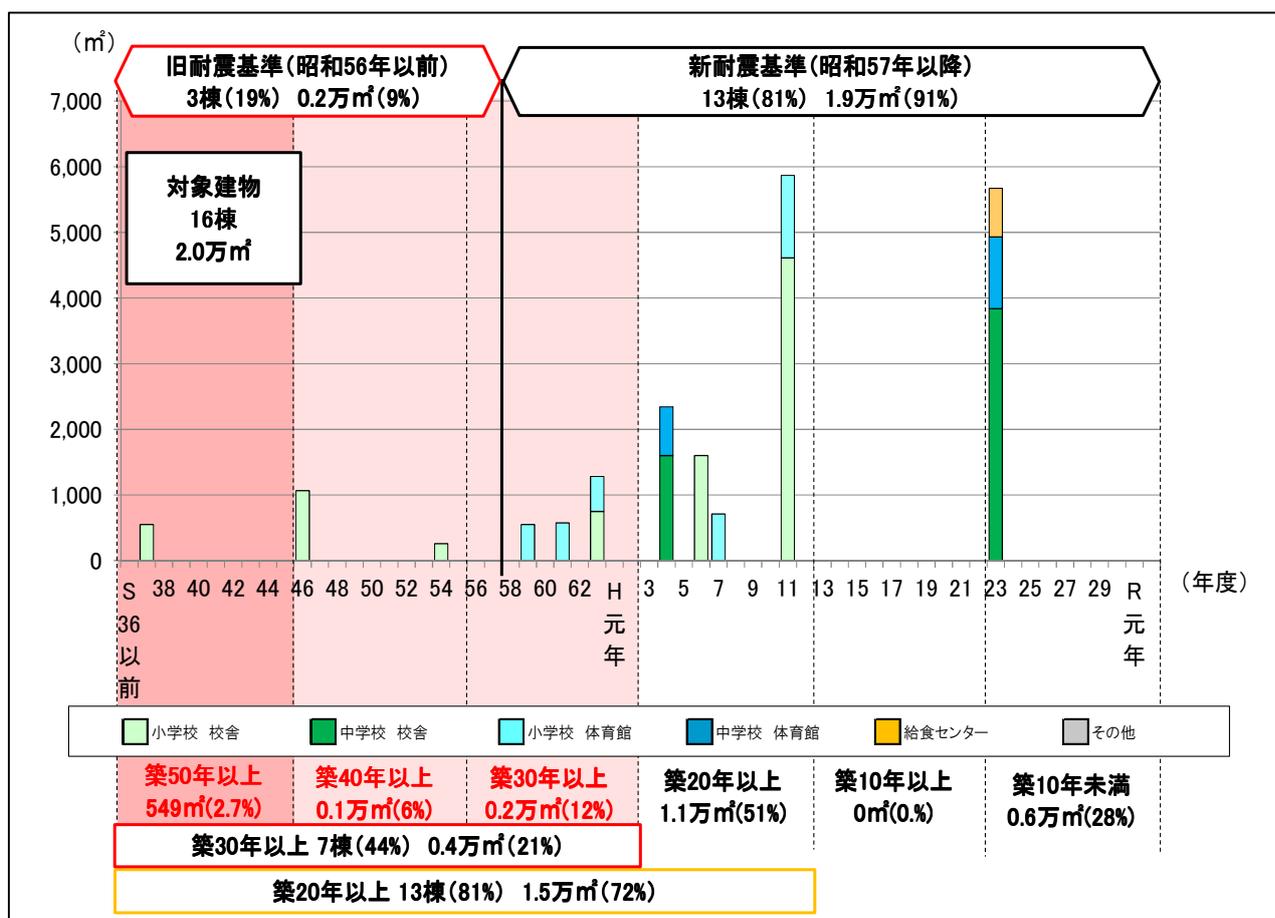
本計画では、校舎、体育館、学校給食センターを対象とします。

対象とする学校施設は16棟で延床面積は約2.0万㎡となり、建築年別の状況で示すと下図となります。

延床面積比として、築30年以上の施設は全体の約71%となっています。

また、昭和56（1981）年6月以前の旧耐震基準で建てられた学校施設は11棟となりますが、これらの施設については、耐震診断が行われ、耐震補強が必要と診断された3校5棟の建物については、大規模改修により補強工事が行われております。

図表 建築年別整備状況（令和元（2020）年5月1日現在）



図表 建物別施設の状況（令和元（2020）年5月1日現在）

種別	施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月			耐震診断				耐震補強		
						和暦	西暦	(西暦)	基準	診断	調査 年度	IS値	補強	年度	IS値
小学校	1 弟子屈小学校	校舎1	RC	3	4,612	H11	11	(1999)	新						
		体育館	S	2	1,256	H11	12	(1999)	新						
	2 川湯小学校	校舎1	RC	2	1,601	H6	10	(1994)	新						
		体育館	RC/S	1	710	H7	12	(1995)	新						
	3 和琴小学校	校舎1	RC	1	1,064	S46	12	(1971)	旧	済	H23	0.82			
		体育館	RC/S	1	575	S61	12	(1986)	新						
	4 美留和小学校	校舎1	W	1	749	S63	12	(1988)	新						
		体育館	S	1	534	S63	12	(1988)	新						
	5 奥春別小学校	校舎1	S	1	549	S37	10	(1962)	旧	済	H23	0.70			
		校舎2	RC	1	257	S54	11	(1979)	旧	済	H23	1.98			
体育館		S	1	548	S59	12	(1984)	新							
中学校	1 弟子屈中学校	校舎1	RC	3	3,838	H23	3	(2011)	新						
		体育館	S	2	1,093	H23	3	(2011)	新						
	2 川湯中学校	校舎1	RC	2	1,600	H4	3	(1992)	新						
		体育館	RC/S	1	742	H4	12	(1992)	新						
他	1 学校給食センター	給食センター	RC	1	741	H23	12	(2011)	新						
計		16棟	20,469 ㎡												

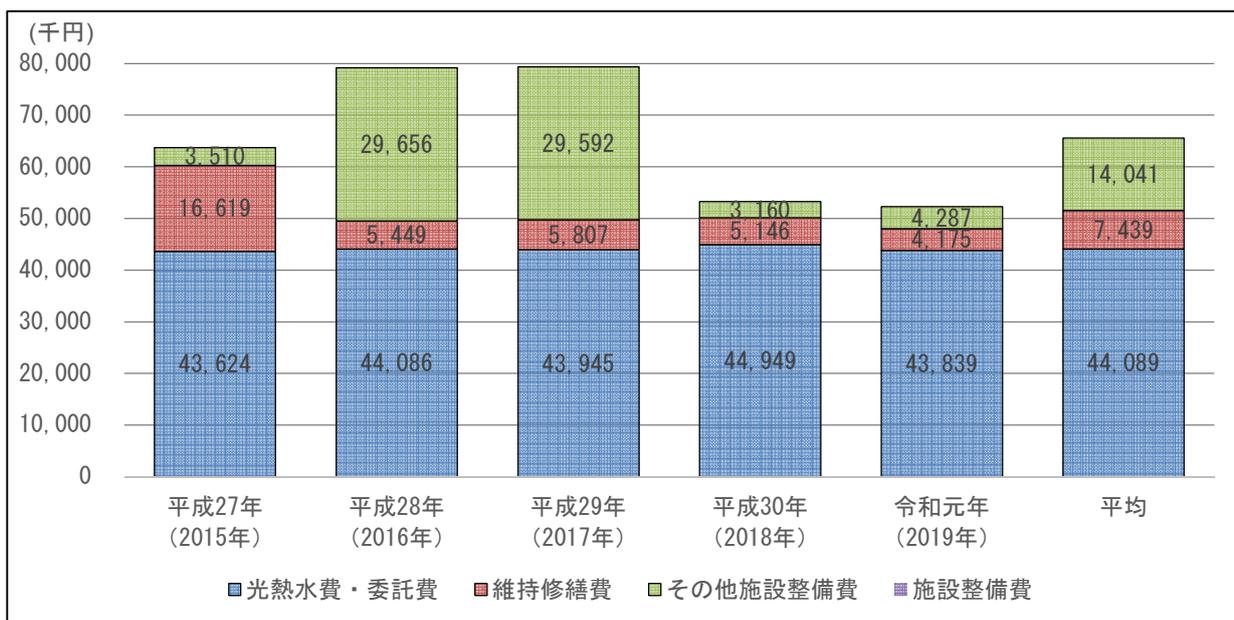
#### 4 施設関連経費の推移

過去5年間の学校施設における施設関連経費は、施設整備費はなく、防災機能強化工事に係るその他施設整備費は平均で約1.4千万円/年、維持修繕費は平均で7.4百万円/年、委託費および水道光熱費は平均で約4.4千万円/年で、計6.5千万円/年となっております。

今後、学校施設整備に充てられる経費は、町全体の予算調整を行う中で決定していくこととなりますが、この6.5千万円/年を「長寿命化によるコスト試算の比較と検証」における基準額として設定します。

図表 施設関連経費の推移

(単位：千円)



(単位：円)

	種別	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	平均
施設整備費	小学校	0	0	0	0	0	0
	中学校	0	0	0	0	0	0
	給食センター	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
その他施設整備費	小学校	0	0	29,592,000	3,160,080	0	6,550,416
	中学校	3,510,000	29,655,828	0	0	4,287,300	7,490,626
	給食センター	0	0	0	0	0	0
	計	3,510,000	29,655,828	29,592,000	3,160,080	4,287,300	14,041,042
維持修繕費	小学校	13,430,258	3,828,059	3,237,787	3,335,223	1,957,245	5,157,714
	中学校	2,732,684	1,107,568	1,943,113	1,001,418	1,014,232	1,559,803
	給食センター	455,918	513,830	626,517	809,578	1,203,724	721,913
	計	16,618,860	5,449,457	5,807,417	5,146,219	4,175,201	7,439,431
光熱水費・委託費	小学校	18,436,149	18,687,365	18,519,594	18,850,069	18,267,937	18,552,223
	中学校	13,644,896	13,478,263	13,643,354	13,714,846	13,462,796	13,588,831
	給食センター	11,543,053	11,920,399	11,782,351	12,383,854	12,108,671	11,947,666
	計	43,624,098	44,086,027	43,945,299	44,948,769	43,839,404	44,088,719
合計		63,752,958	79,191,312	79,344,716	53,255,068	52,301,905	65,569,192

## 5 学校施設の劣化状況の実態

### (1) 学校施設の劣化状況の評価

本町の学校施設等について、劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況の評価します。評価は「屋上・屋根、外壁」については目視により、また「内部仕上げ、電気・機械設備」については経年劣化により、下表のA～D段階で評価します。

①目視による評価  
(屋上・屋根、外壁)

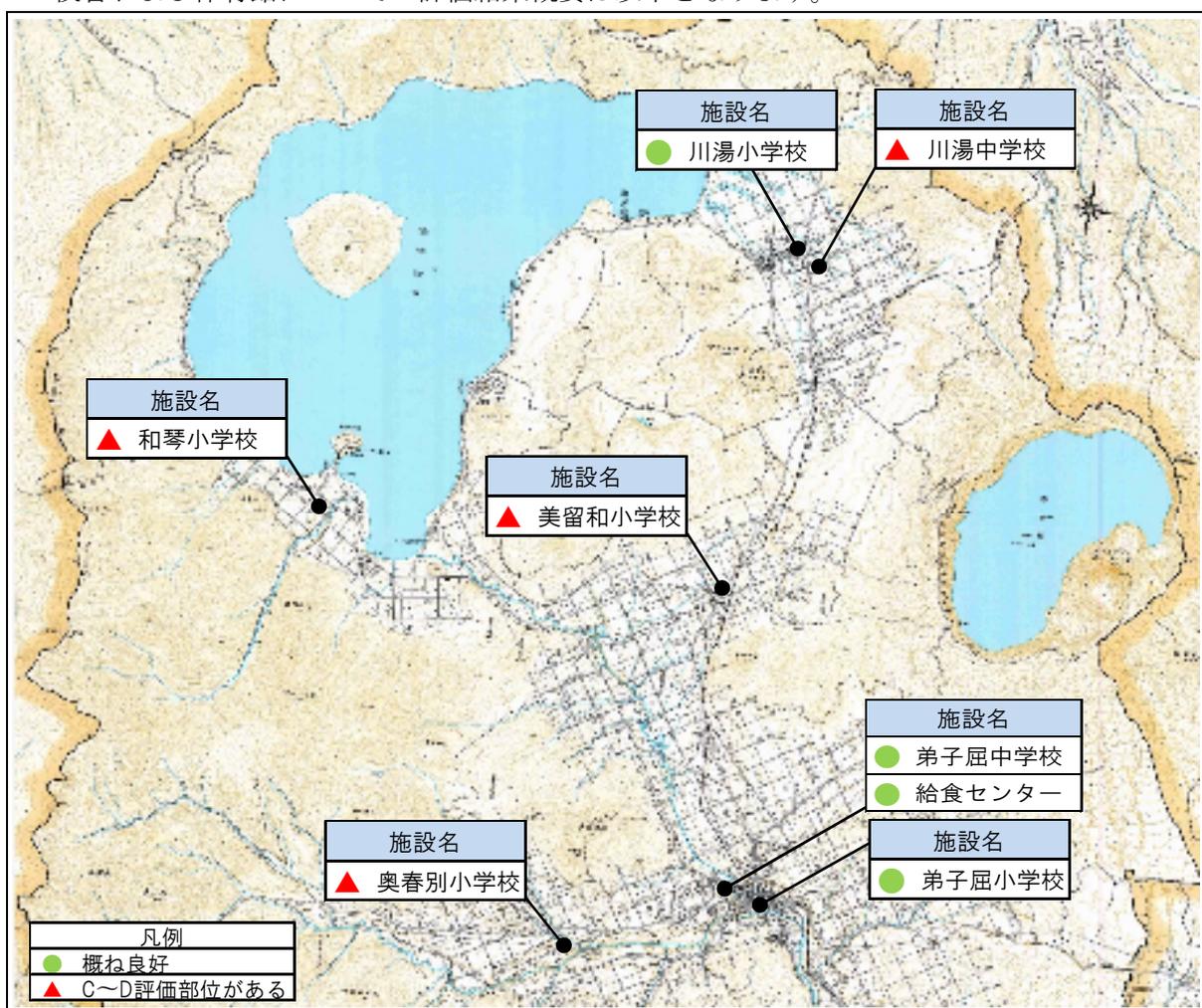
評価	基準 (解説書)
A	概ね良好
B	部分的に劣化 (安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化 (安全上、機能上、不具合発生の兆し)
D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

②経年劣化による評価  
(内部仕上げ、電気・機械設備)

評価	基準 (解説書)
A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
D	経年劣化に関わらず著しい劣化事象がある場合

### (2) 学校施設の劣化状況調査

校舎および体育館についての評価結果概要は以下となります。



(3) 学校施設の劣化状況

1) 弟子屈小学校

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	3	4,612	H11	11	B	B	B	B	B
体育館	S	2	1,256	H11	12	B	B	B	B	B



< 施設状況・代表的な課題 >

1: 屋上防水の劣化

部分的な劣化が見られる



屋上防水(玄関上部)

2: 外壁の塗装劣化

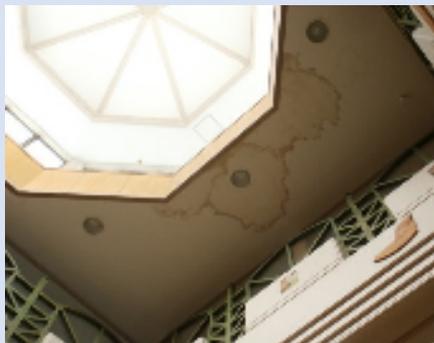
サッシ周りなど、部分的な塗装の浮きと剥離が見られる



外壁(校舎北面)

3: 天井の雨漏り跡

エントランスホール天井の雨漏り跡、円筒型ハイサイドライト周囲からと思われるが、現在は止まっている



天井(エントランスホール)

4: 外壁の亀裂(窓周辺)

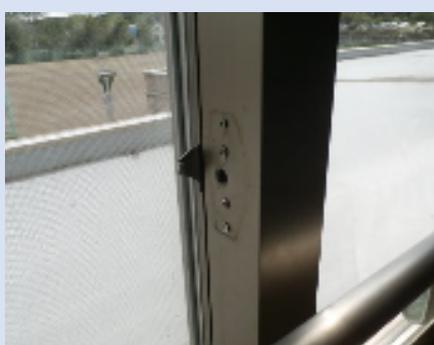
窓の隅部から放射状の亀裂が一部に見られる



外壁(校舎北面)

5: サッシ鍵の破損

サッシ鍵の破損箇所



サッシ鍵(2F 普通教室)

6: 天井換気口の破損

換気口は破損のままとなっている



男子更衣室(換気口)

< 備考(学校指摘事項等) >

- ・ホール天井の雨漏り [学校指摘] ※現在は止る
- ・児童クラブ天井の雨漏り [学校指摘] ※現在は止る
- ・黒板破損 [学校指摘]
- ・教室サッシ鍵破損 [学校指摘]
- ・男子更衣室換気口破損 [学校指摘]

## 2) 川湯小学校

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	2	1,601	H6	10	B	B	B	B	B
体育館	RC/S	1	710	H7	12	B	B	B	B	B



### < 施設状況・代表的な課題 >

#### 1: 屋上防水の劣化

部分的な劣化が見られる



屋上防水(エントランス上部)

#### 2: 外壁の亀裂と塗装剥離

校舎外壁等に部分的な亀裂や塗装剥離が見られる



屋外柱(校舎1階南西角)

#### 3: コンクリート柱の亀裂

写真は体育館エントランス庇の亀裂、対象箇所はモルタルが剥離し一部骨材が見える



体育館エントランス(庇柱)

#### 4: 天井の雨漏り箇所

体育館と校舎を接続するエキスパンジョイント部周辺で雨漏り跡が見られる



体育館接続廊下

#### 5: 外壁の塗装剥離

外壁の一部で塗装の剥離が見られる



外壁(普通教室棟裏)

#### 6: 塗装剥離(煙突)

機械室煙突で塗装剥離が見られる



機械室煙突

### < 備考(学校指摘事項等) >

- ・体育館接続部の雨漏り [学校指摘] ※現在は止る
- ・天井雨漏り [学校指摘]
- ・天井ハイサイド窓のヒビ [学校指摘]
- ・ひまわり教室雨漏り [学校指摘]

### 3) 和琴小学校

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	1	1,064	S46	12	B	B	C	C	C
体育館	RC/S	1	575	S61	12	B	B	B	B	B



#### < 施設状況・代表的な課題 >

##### 1: 屋根・外壁 (校舎)

校舎は老朽改修が実施され、破損等は見られない



屋根外壁(校舎)

##### 2: 屋根・外壁 (体育館)

体育館外壁等も破損等は見られない



屋根外壁(体育館)

##### 3: 廊下(床)の補修

築年数経過により廊下タイル剥離多数。都度補修が行われている。



廊下(部分張替後のPタイル)

##### 4: 天井の雨漏り跡

体育館天井の一部で雨漏り跡が見られる



天井の雨漏り跡(体育館)

##### 5: 改修後の廊下サッシ

廊下サッシは2重サッシへの改修が行われている



サッシ(廊下)

##### 6: 屋根の破損

プロパン庫の屋根で破損が見られる



屋根破損(プロパン庫)

#### < 備考(学校指摘事項等) >

- ◆校舎近年改修済み(体育館未改修)
- ・体育館天井雨漏り [学校指摘]
- ・プロパン庫屋根破損 [学校指摘]
- ・廊下Pタイル年20~30枚剥離・張替を実施

#### 4) 美留和小学校

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	W	1	749	S63	12	C	B	B	B	B
体育館	S	1	534	S63	12	B	B	B	B	B



#### < 施設状況・代表的な課題 >

##### 1: 屋根板金の劣化

屋根板金で広範囲に錆が見られる



屋根(校舎棟)

##### 2: 外壁の破損

校舎棟外壁サイディングで一部破損が見られる



外壁(校舎棟)

##### 3: シーリングの劣化

外壁サイディングのシーリングが複数箇所硬化による亀裂が見られる



外壁(シーリング)

##### 4: 外壁シーリングの剥離

外壁シーリングに複数箇所劣化による剥離が見られる



外壁(シーリング)

##### 5: 体育館出入口の破損

体育館出入口及び周辺廊下天井での雨漏りや湿気等による破損が見られる



体育館(出入口)

##### 6: 天井材の剥離

職員室での雨漏りや湿気による天井壁紙の剥離が複数箇所で見られる



天井(職員室)

#### < 備考(学校指摘事項等) >

- ・ 屋根錆び [学校指摘]
- ・ 南面教室出窓シーリング劣化 [学校指摘]
- ・ 職員室雨漏り [学校指摘]
- ・ 職員室天井クロスはがれ [学校指摘]
- ・ 体育館接続廊下壁湿気によるシミ [学校指摘]
- ・ アリーナ出入口建具雨漏り [学校指摘]

5) 奥春別小学校

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1	S	1	549	S37	10	B	B	C	C	C
校舎2	RC	1	257	S54	11	B	B	B	B	B
体育館	S	1	548	S59	12	B	B	B	B	B



< 施設状況・代表的な課題 >

<p><b>1: 屋根板金</b></p> <p>校舎棟屋根に破損等は見られず概ね良好な状態</p>  <p style="text-align: center;">屋根(校舎棟)</p>	<p><b>2: 軒下の破損</b></p> <p>校舎棟玄関の軒下で一部破損が見られる</p>  <p style="text-align: center;">軒下(校舎棟玄関)</p>
<p><b>3: 軒先の屋根板金破損</b></p> <p>校舎付属棟の軒先で一部屋根板金の劣化による破損が見られる</p>  <p style="text-align: center;">軒(校舎付属棟)</p>	<p><b>4: 外壁塗装の浮き</b></p> <p>校舎棟外壁の一部に塗装の浮きが見られる</p>  <p style="text-align: center;">外壁(校舎棟)</p>
<p><b>5: サッシの剥離</b></p> <p>校舎棟アルミサッシの一部で劣化によるシールの剥離が見られる</p>  <p style="text-align: center;">サッシ(校舎棟)</p>	<p><b>6: 玄関建具鍵の破損</b></p> <p>正面玄関建具で鍵の破損が見られる</p>  <p style="text-align: center;">建具(校舎棟玄関)</p>

< 備考(学校指摘事項等) >

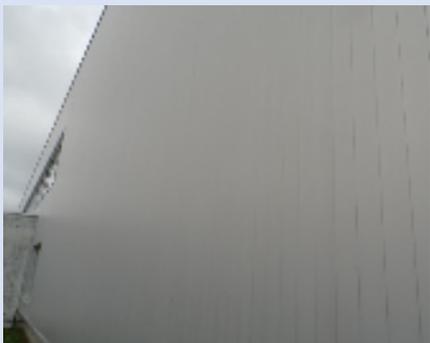
- ・ 体育館雨漏り (すがもり?) [学校指摘]
- ・ 体育館舞台幕劣化 [学校指摘]
- ・ 体育館舞台下物入れ開閉不良 [学校指摘]
- ・ 正面玄関鍵破損 [学校指摘]
- ・ 教室壁隙間 [学校指摘]

6) 弟子屈中学校校 (合築の給食センター含む)

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	3	3,838	H23	3	A	A	A	A	A
体育館	S	2	1,093	H23	3	A	A	A	A	A
給食センター	RC	1	741	H23	12	A	A	A	A	A



< 施設状況・代表的な課題 >

<p><b>1:外壁(ブロック)</b></p> <p>劣化等は見られず良好な状態</p>	 <p>外壁(校舎棟・給食センター)</p>	<p><b>2:外壁(板金)</b></p> <p>劣化等は見られず良好な状態</p>	 <p>外壁(校舎棟)</p>
<p><b>3:屋上防水</b></p> <p>劣化等は見られず良好な状態</p>	 <p>屋上防水(エントランス上部)</p>	<p><b>4:廊下</b></p> <p>劣化等は見られず良好な状態</p>	 <p>廊下(校舎棟)</p>
<p><b>5:トップライト</b></p> <p>劣化等は見られず良好な状態</p>	 <p>トップライト(校舎棟廊下)</p>	<p><b>6:外壁(シーリング)</b></p> <p>劣化等は見られず良好な状態</p>	 <p>外壁(シーリング)</p>

< 備考(学校指摘事項等) >

・特になし

7) 川湯中学校

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年月		劣化状況				
				和暦	西暦	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	2	1,600	H4	3	B	C	B	B	B
体育館	RC/S	1	742	H4	12	B	B	B	B	B



< 施設状況・代表的な課題 >

<p><b>1: 屋根板金の劣化</b></p> <p>広範囲に劣化による錆が見られる</p>  <p style="text-align: center;">屋根(校舎棟)</p>	<p><b>2: 外壁塗装の劣化</b></p> <p>外壁の塗装面は部分的に劣化による剥離が見られる</p>  <p style="text-align: center;">外壁</p>
<p><b>3: 外壁の劣化</b></p> <p>外壁材の一部に亀裂等の劣化が見られる</p>  <p style="text-align: center;">外壁(校舎棟)</p>	<p><b>4: 屋上防水</b></p> <p>修繕後の屋上防水。良好な状態</p>  <p style="text-align: center;">屋上防水(エントランス上部)</p>
<p><b>5: 窓枠周辺からの雨漏り</b></p> <p>職員室や校長室等複数箇所の窓枠で雨漏り跡が見られる</p>  <p style="text-align: center;">窓建具(校長室)</p>	<p><b>6: 室内の雨漏り</b></p> <p>音楽室等の複数箇所で雨漏りが見られる</p>  <p style="text-align: center;">内壁(音楽室)</p>

< 備考(学校指摘事項等) >

- ・ 外壁劣化 [学校指摘]
- ・ 屋根錆び [学校指摘]
- ・ 校長室雨漏り (窓建具より) [学校指摘]
- ・ 職員室雨漏り (窓建具より) [学校指摘]
- ・ 音楽室雨漏り (防水工事済み)
- ・ 体育館雨漏り (屋根3面交点部) [学校指摘]
- ・ 体育館ボイラー室雨漏り [学校指摘]
- ・ 保健室雨漏り [学校指摘]
- ・ しらかば学級雨漏り [学校指摘]

(4) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

学校施設の劣化状況を以下にまとめます。劣化状況評価では、一部の学校の部位でC判定となる施設が見られます。

図表 学校施設の劣化状況評価

建物基本情報									構造躯体の健全性					劣化状況評価						
通し番号	施設名	建物名	構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度			耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)
						西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )	試算上の区分						
1	弟子屈小学校	校舎1	RC	3	4,612	1999	H11	21	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
2	弟子屈小学校	体育館	S	2	1,256	1999	H11	21	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
3	川湯小学校	校舎1	RC	2	1,601	1994	H6	26	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
4	川湯小学校	体育館	S	1	710	1995	H7	25	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
5	和琴小学校	校舎1	S	1	1,064	1971	S46	49	旧	済	-	H23	16.8	長寿命	B	B	C	C	C	53
6	和琴小学校	体育館	S	1	575	1986	S61	34	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
7	美留和小学校	校舎1	W	1	749	1988	S63	32	新					長寿命	C	B	B	B	B	72
8	美留和小学校	体育館	S	1	534	1988	S63	32	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
9	奥春別小学校	校舎1	S	1	549	1962	S37	58	旧	済	-	H23	8.42	要調査	B	B	C	C	C	53
10	奥春別小学校	校舎2	RC	1	257	1979	S54	41	旧	済	-	H23	29.4	長寿命	B	B	B	B	B	75
11	奥春別小学校	体育館	S	1	548	1984	S59	36	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
12	弟子屈中学校	校舎1	RC	3	3,838	2011	H23	9	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
13	弟子屈中学校	体育館	S	2	1,093	2011	H23	9	新					長寿命	A	A	A	A	A	100
14	川湯中学校	校舎1	RC	2	1,600	1992	H4	28	新					長寿命	B	C	B	B	B	65
15	川湯中学校	体育館	S	1	742	1992	H4	28	新					長寿命	B	B	B	B	B	75
16	学校給食センター	給食センター	RC	1	741	2011	H23	9	新					長寿命	A	A	A	A	A	100

■ : 築 50 年以上    ■ : 築 30 年以上

■ : 概ね良好    ■ : 広範囲に劣化  
 ■ : 部分的に劣化    ■ : 早急に対応する必要がある

## 第2章 学校施設整備の基本的な方針

### 1 学校施設の規模・配置計画等の方針

#### (1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

基本方針は本計画の上位計画である「弟子屈町公共施設等総合管理計画（平成28年7月）」に位置づけられた以下の方針とします。

##### < 1. 公共施設等の管理に関する基本的な方針（基本方針） >

###### ◆施設総量の圧縮（施設維持から機能維持へ）

◇施設総量は人口減少率に即して圧縮し、新規に公共施設を建設する場合は同面積（コスト）を圧縮するとともに、単一施設よりも稼働率を重視した施設の複合化、集約化を基本とします。

###### ◆必要施設の長寿命化、改修等の推進

◇必要性の高い施設は対症療法的な事後保全型の維持管理から、計画的財源調達に基づく、損傷が軽微な早期段階に予防的修繕を行う予防保全型維持管理への転換と、長寿命化を実施することで安全性の確保とトータルコストの縮減、平準化を図ります。

###### ◆まちづくりや住民生活向上につながる機能の確保

◇地域の特性等に応じた機能を確保するとともに、まちづくりと連動した公共施設等の再編（第5次弟子屈町総合計画と連動した公共施設等の再編）と住民生活向上につながる機能の確保と公共サービスの提供を図ります。

###### ◆国・道・近隣自治体等との連携

◇定住自立圏構想などに基づく近隣自治体との施設等相互利用（スポーツ施設等の相互利用、共同運用、サービス連携、役割分担等による効率化）や「国と地方が連携した地域の国公有財産の最適利用」等による連携を検討します。

##### < 1. 公共施設等の管理に関する基本的な方針（実施方針6） >

###### ◆統合や更新及び廃止

◇人口減少等に応じて段階的な老朽化・劣化施設の廃止、耐用年数に達するなど大規模な修繕が必要となる老朽化、劣化施設の供用廃止基準を策定します。

◇PPP、PFIの活用による建替えや、大規模修繕を検討します。

◇地域毎に重複、類似する施設を抽出し利用状況を検証、検証結果に基づき、地域の特性や地域コミュニティの中核施設として学校施設等への機能集約化（多機能化）を図ります。

◇施設集約化に伴う公共交通手段の確保の検討を並行して行います。

##### < 2. 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 >

###### ◆学校教育系施設（学校）

小学校（弟子屈・川湯・美留和・和琴）、中学校（弟子屈・川湯）

◇長寿命化を図るための施設整備に取り組むとともに、余裕教室を有効活用した他機能との併用をはじめとする施設全体の最適化、地域の中核施設としての多機能化を検討します。（※奥春別小学校は令和3年度より弟子屈小学校への統合を予定します。）

## (2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

本町の学校教育系施設の平均在籍率は単純平均で40.8%にとどまっています。在籍率50%以上の学校は2校（弟子屈小学校、弟子屈中学校）にとどまる一方、10%に満たない学校は2校（美留和小学校、和琴小学校）で、いずれも全校児童数が10人に満たない状況です。（平成30年度末現在）

これらの状況も踏まえ表記方針は、「弟子屈町公共施設等個別施設管理基本計画（平成30年3月）」における「学校教育系施設の方向性」を配置計画等の方針とします。

施設名等		今後の具体的な方向性
全体		◆地域の中核施設として全施設を保全し、多機能化に取り組みます。
小学校	弟子屈小学校	◇弟子屈小学校は長寿命化を実施し、余裕教室を有効活用して町内3箇所のこども館機能を集約し、複合化施設とします。
	奥春別小学校	◇奥春別小学校は児童数の減少と校舎の老朽化等から弟子屈小学校へ統合するものとします。（令和3年4月予定）
	川湯小学校	◇川湯小学校は長寿命化を実施し、余裕教室を活用してこども館機能を集約し複合化施設とします。
	美留和小学校	◇美留和小学校は児童数の減少から将来的に弟子屈小学校への統合が見込まれるため、維持補修による保全とし、美留和会館と札友内寿の家機能を集約し複合化施設とします。
	和琴小学校	◇和琴小学校は児童数の減少から将来的に弟子屈小学校への統合が見込まれるため、維持補修による保全とし、屈斜路研修センター機能を集約し複合化施設とします。
中学校	弟子屈中学校	◇弟子屈中学校は長寿命化を実施し、川湯中学校が閉校した場合の集約先とします。
	川湯中学校	◇川湯中学校施設は弟子屈中学校への統廃合を検討し、閉校した場合、施設は貸し付けや売却を検討します。

## 2 改修等の基本的な方針

### (1) 目標使用年数、改修周期の設定

鉄筋コンクリート造の学校施設の法定耐用年数は、47年となっているが、これは税務上、減価償却費を算定するためのものである。物理的な耐用年数はこれより長く、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに、技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能である。

これを踏まえ、今後は施設の寿命が続く限りにおいて、既存施設の有効活用を図ります。そのため、施設の目標使用年数は概ね70～80年と設定し、長寿命化改修の周期を築後40～50年、大規模改造の周期を20年間隔と設定します。

図表 目標使用年数、改修周期の設定

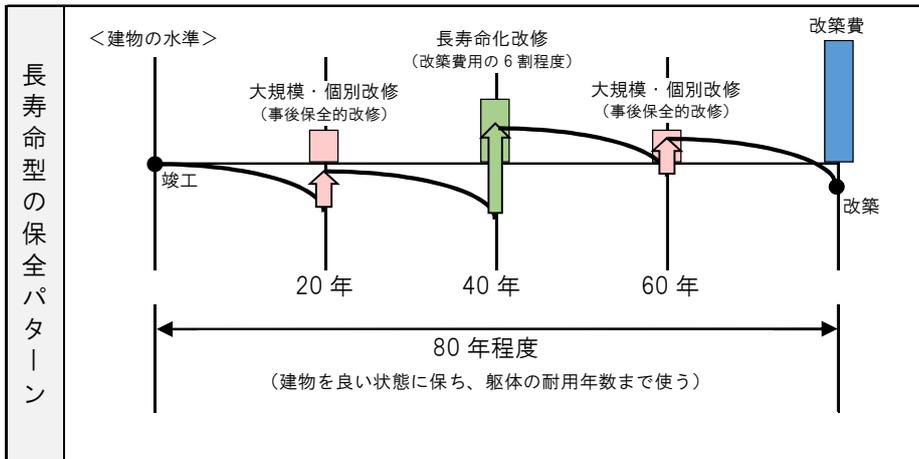
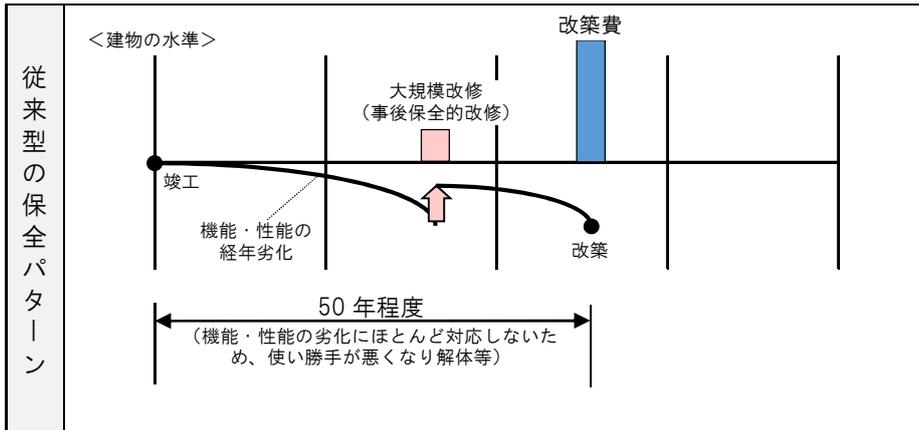
	目標使用年数	大規模改造の周期	長寿命化改修の周期
校舎	70～80年	20年	40～50年
体育館	70～80年	20年	40～50年
給食センター	70～80年	20年	40～50年

## (2) 長寿命化の方針

基本方針の実現に向け従来の改築を基本とする施設の更新から、長寿命化等により使用年数の長期化を図ります。原則として大規模改造、長寿命化改修は以下の設定とします。

### <施設の使用年数・改修周期等の設定>

- ◆使用年数……………70～80年程度
- ◆長寿命化改修……………40～50年程度
- ◆大規模改造……………20年程度



### <改修工事の内容>

個別改修 (経年劣化部位改修)	大規模改修 (原状回復複合改修)	長寿命化改修 (原状回復+機能向上改修)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別部位ごとの経年劣化等による躯体への影響予防に資する改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化による損耗や機能低下回復に向けた複合改修工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化による機能回復工事と、社会的要求に対応する性能向上改修工事</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆劣化部位毎の個別改修</li> <li>・屋上防水改修 (部分)</li> <li>・外壁改修 (部分)</li> <li>・劣化部位修繕</li> <li>・故障、不具合修繕、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆屋上防水改修 (全面)</li> <li>◆外壁改修 (全面)</li> <li>◆設備機器の更新 (部位)</li> <li>◆著しい劣化部位の修繕</li> <li>◆故障、不具合改修、ほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防水改修 (断熱化)</li> <li>◆外壁改修 (外断熱等)</li> <li>◆開口部改修 (断熱化)</li> <li>◆全面的な設備更新 (電気、給排水、ほか)</li> <li>◆内部改修</li> </ul>

### 3 今後の維持更新コストの比較

今後の維持・更新コスト（長寿命化型）は、長寿命化のイメージに基づくものであり、建物情報一覧表の試算上の区分（長寿命、改築）により更新周期を設定するとともに、躯体以外の劣化状況（ABCD 評価）を直近の修繕費に反映して算出します。

#### <コスト算出の考え方>

◆築年数に応じた時期に、現状と同じ延床面積で改築・改修を行うものと設定
◆改築、長寿命化改修は2年に工事費を均等配分、大規模改造は単年度で計上
◆改築及び長寿命化改修の実施年数より古い建物は、今後10年以内にそれらを実施するものとし、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
◆長寿命化改修の実施が可能かどうかを建物毎に判定し、改修周期を設定
①長寿命化可能な建物（試算上の区分が「長寿命」の建物）は、築40年に長寿命化改修、築20年、築60年に大規模改造、築80年に改築すると設定
②長寿命化可能な建物で、基準年時点で築40年を超えている建物は、今後10年以内に長寿命化改修を実施すると設定
③長寿命化改修が実施できない建物（試算上の区分が「要調査」「改築」または未記入の建物）は、長寿命化改修を実施せずに改築（改築までは20年周期で大規模改造を実施）すると設定
◆今後5年以内にD評価の部位の修繕を、今後10年以内にC評価の部位の修繕を実施すると設定。ただし、改築、長寿命化改修、大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く
◆今後10年間に長寿命化改修を実施する建物は、長寿命化改修費からA評価の部位修繕相当額を差し引く
◆プール、グラウンド及び共用設備（受変電、自家発、入水、排水）等は、必要に応じて別途、費用を計上（「その他施設整備費」欄に記入された金額を基にグラフを作成する。）

#### <維持更新コストの単価設定（円/m<sup>2</sup>）>

	学校		体育館	
改築	100%	400,000	100%	300,000
長寿命化改修	60%	240,000	60%	180,000
大規模改造	25%	100,000	25%	66,000

#### <コスト試算条件>

	従来型		長寿命化型		備考
	周期	工事期間	周期	工事期間	
改築	50年	2年	80年	2年	※実施年数より古い建物の改築を10年以内に実施
長寿命化改修	—	—	40年	2年	※実施年数より古い建物の改修を10年以内に実施
大規模改造	20年	1年	20年	1年	※改築、長寿命化改修の前後10年以内は実施しない

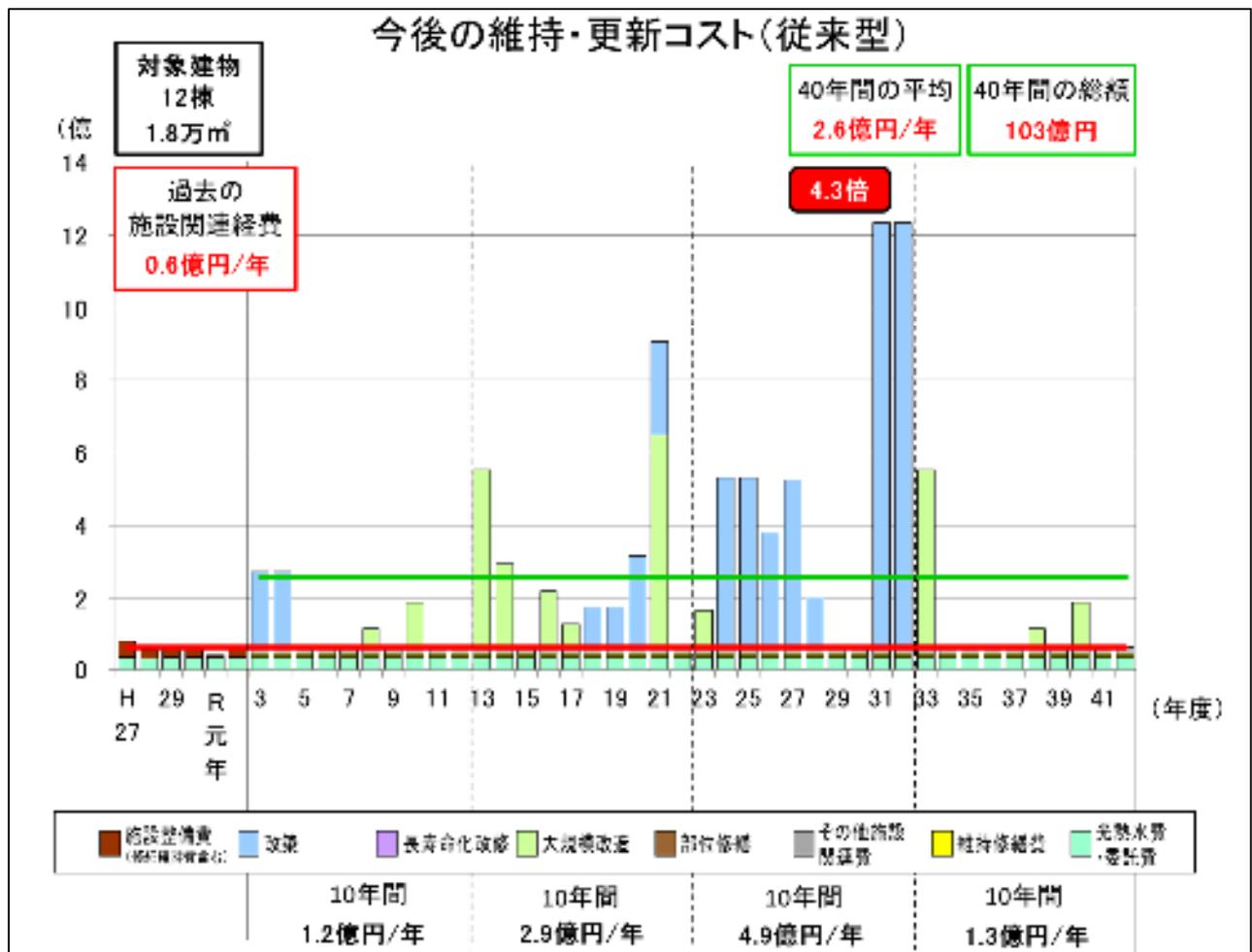
#### <部位修繕>

評価	試算条件	
D 評価	今後5年以内に部位修繕を実施	ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く
C 評価	今後10年以内に部位修繕を実施	
A 評価	今後10年以内に長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く	

## (1) 従来型の維持・更新コスト

今後も従来のように改築中心の建替事業を行っていくと、40年間で約103億円の費用が掛かり、40年間の平均費用は約2.6億円となります。これは直近5箇年の施設関連経費の約4.3倍と想定されます。

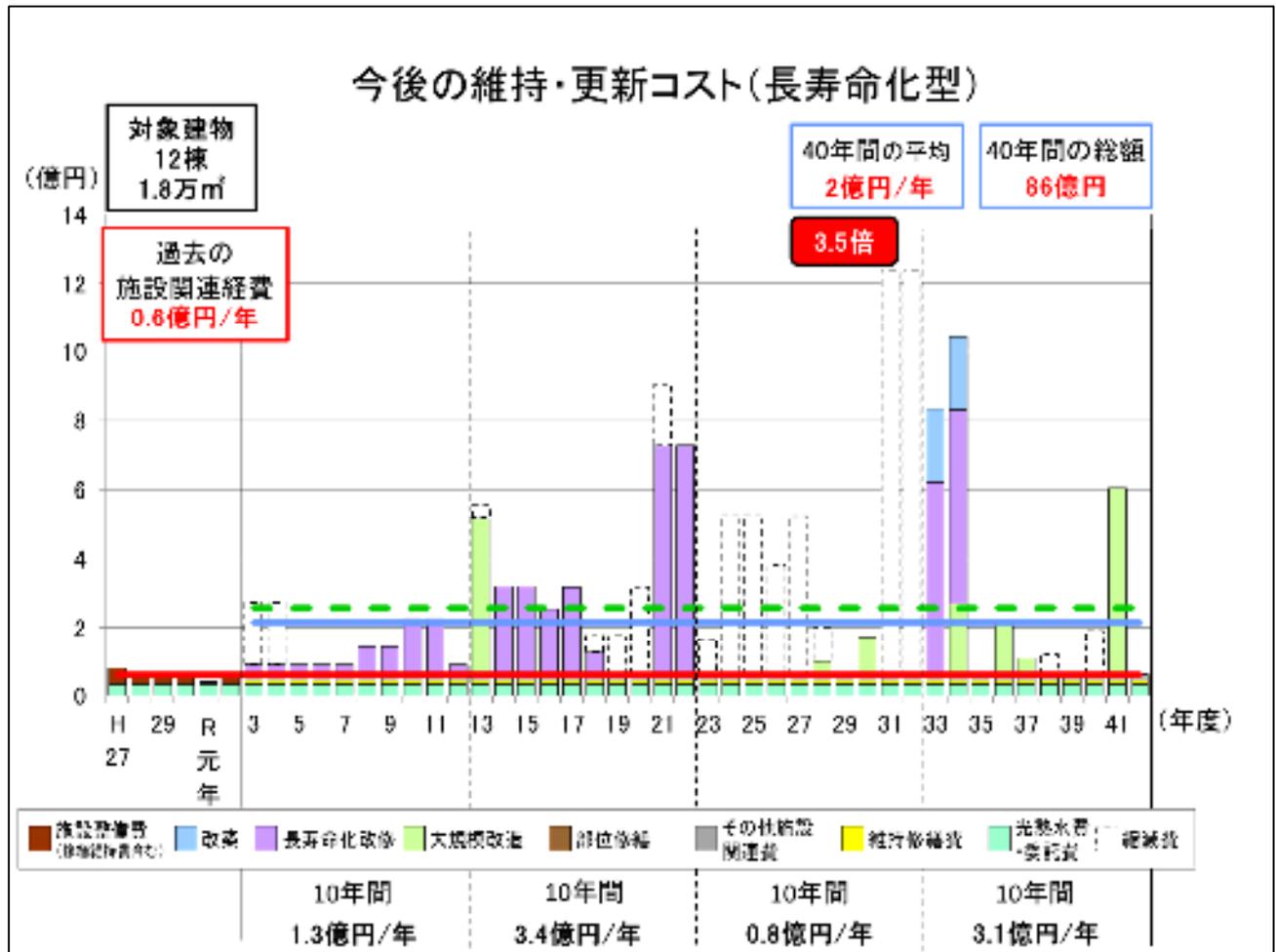
コスト想定グラフ(従来型)では、今後10年間は前半で改築等の費用が発生し、概ね平均として算出される2.6億円以下で推移しますが、10年以降は大規模改造及び長寿命化改修などの多額の費用が見込まれています。また、年度によっては12億円を超える費用が発生しています。なお、奥春別小学校は含んでおりません。



## (2) 長寿命化型の維持・更新コスト

今後、従来型の改築中心の建替事業から、長寿命化型の改修を行い、施設の長寿命化を図っていくと、40年間で約86億円の費用が掛かり、40年間の平均費用は約2億円と試算されます。これは、直近5箇年の施設関連経費の約3.5倍と想定されます。

従来型更新コストとの比較では40年間総額で17億円、年平均で0.6億円のコスト縮減が想定されます。なお、奥春別小学校は含んでおりません。



### < 今後の維持更新コストの比較 >

	条件	40年間総額	40年間の平均
従来型	更新周期：50年 改修周期：20年	111億円	2.8億円/年
長寿命化型	更新周期：80年 改修周期：20年（大規模改造） ：40年（長寿命化改修）	88億円 (約21%縮減)	2億円/年

### 第 3 章 長寿命化の実施計画

#### 1 改修等の整備水準

本町では、前述の基本的な方針で示したように、施設の安全性の確保及び財政負担の軽減・平準化の観点から、適切な時期に長寿命化改修を実施し、目標耐用年数を概ね 80 年とした施設の長寿命化を図ります。

長寿命化改修では、単に物理的な不具合を直すのみでなく、ライフサイクルコストの向上や建物のエネルギー効率の向上、環境負荷の低減等の観点を取り入れて、下記の考え方で耐久性の向上を図ります。

図表 改修等の整備水準

部位	耐久性の向上策
屋根・屋上	<p>◇屋根・屋上においては、躯体や建物内部への漏水を防止し、建物の劣化を押しさえるため、適正時期での屋根や、屋上防水の防水材更新を全面的に行います。</p> <p>◇屋根の更新については、ガルバリウム鋼板等の耐久性の高い素材での更新や、耐久性や遮熱性の高い塗装による改修や修繕を行います。</p> <p>◇屋上防水の防水材については、既存の防水仕様や今後の供用年数等を考慮し、塗膜防水、シート防水及びアスファルト防水等の中から、最も費用対効果の高いものを選定します。</p>
外 壁	<p>◇外壁については、ひび割れ、浮き及び剥落等の劣化を未然に防止するため、各対象建物の状況に応じ、壁面材で部分的又は全面的に被覆し、躯体の劣化現象の進行を遅らせます。</p> <p>◇壁面材の材料は、既存仕様及びその他断熱性能を勘案の上、耐候性の高い塗膜仕上げやモルタル補修の他、板金や金属系サイディング等の耐久性の高い素材での被覆等、最も費用対効果の高いものを選定します。</p>
電気設備 機械設備	<p>◇設備機器の老朽化対策では、日常点検、消耗部品の定期交換によって故障を未然に防ぐとともに、必要に応じて物理的耐用年数の長い機器を選定します。また、設備配管の老朽対策では、更新工法等、今後のメンテナンスの容易さや、供用年数の見通し等を勘案し、最も費用対効果の高い対策工法を選定します。</p>

## 2 改修等の優先順位づけと実施計画

建築年数が40年を超え劣化が著しく顕在化している建物については、建物の健全性を回復するための大規模改修を行います。

以降、構想期間については、築年数や大規模改修等の実施経過年数により、適正な改修時期を設定します。

なお、具体的実施計画については、計画更新時に上位計画の方針を踏まえ、改修、統合、用途廃止等の活用方針を再度検討することとします。

### (1) 学校施設・設備の改修等

学校施設や設備に関する改修計画は、第2次弟子屈町教育推進基本計画（2018～2022年度）で位置づけた下表の項目とします。

安全で快適な教育環境を安定的に提供できるよう、経年による学校施設設備の損耗、機能低下について、計画的に改修及び維持補修を進めます。

図表 ①学校施設の整備充実（第2次弟子屈町教育推進基本計画より抜粋）

施策項目	具体的な項目	事務事業	内容
1. 学校施設等設備改修・補修事業	1. 小中学校等施設改修の促進	1. 小中学校施設改修事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防水改修（弟子屈小・川湯小・川湯中）</li> <li>・ 児童クラブ対応改修（弟子屈小・川湯小）</li> <li>・ 暖房対策として床暖房熱源の温泉熱活用への改修（弟子屈小）</li> <li>・ 屋外施設の改修、保守</li> <li>・ その他経年劣化への対応改修、保守</li> </ul>
	2. 小中学校等設備改修の促進	1. 小中学校設備改修事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音響等電気設備の改修、保守</li> <li>・ 暖房設備の改修、保守</li> <li>・ 給排水設備の改修、保守</li> <li>・ 屋外設備の改修、保守</li> <li>・ その他経年劣化への対応改修、保守</li> </ul>
2. 学校教育施設あり方検討事業	1. 学校教育施設あり方の検討	1. 弟子屈町公共施設等個別施設管理基本計画推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理基本計画に基づく学校教育施設の維持管理の実施（小学校5校、中学校2校）</li> </ul>

## (2) 教育環境の充実に向けた設備更新等

老朽化したえOA 機器を計画的に更新するとともに、校務で使用するシステムも計画的に整備します。

図表 ②備品・教材等の整備充実（第2次弟子屈町教育推進基本計画より抜粋）

施策項目	具体的な項目	事務事業	内容
1. 小中学校 電子機器の更 新活用事業	1. パソコン等 更新及び活用事 業の推進	1. パソコン更新 事業（教師用、児 童生徒用）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒用パソコンの更新、充実化</li> <li>・教職員用パソコンの更新、充実化</li> <li>・サーバーシステムの更新、保守等</li> <li>・wi-fi 環境の整備、充実化</li> <li>・OS、ソフトウェアの更新、充実化</li> </ul>
		1. ICT 環境境整 備促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット等の導入</li> <li>・デジタル教科書への対応</li> <li>・その他電子機器への対応</li> </ul>
	1. 事務機器の 更新	1. 事務機器の更 新事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリンター、印刷機等の更新</li> <li>・ペーパーレス化の推進</li> </ul>
1. 小中学校 校務支援シス テム導入事業	1. 小中校務支 援システム導入 事業の推進	校務支援シス テム導入事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入校での活用推進、保守等</li> <li>・未導入校での導入、検討</li> <li>・システム改修要望等</li> </ul>

### 3 維持管理の項目・手法等

長寿命化を図るためには、定期的な改修工事を行うだけでなく日常的、定期的に施設の点検や、清掃、情報管理を行う必要があります。

日常的、定期的に維持管理を行うことで建物の劣化状況を詳細に把握でき、より早急に異常に気付くことができるため、下表に示す項目により施設に応じた維持管理を行います。

図表 維持管理の項目・手法等

維持管理分類	項目	内容	頻度	主な担当
日常的な点検	清掃	快適な環境を維持しながら建物の仕上材や機器の寿命を延ばすため、塵や汚れを除去する	毎日	施設管理者
	日常点検	機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見する。	毎日	施設管理者
定期的な点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画を立てる	周期を設定	施設管理者 施設設置者
	法定点検	自主点検では確認できない箇所や法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検する。	周期を設定	専門業者
臨時点検	臨時点検	日常、定期点検以外に行う臨時的な点検	故障時等随時実施	施設管理者 施設設置者 専門業者
情報管理	施設台帳の整備	点検・工事の履歴を作成し、各施設の現状把握や計画への反映に活用する。	各点検、改修、修繕後に実施	施設設置者

※施設管理者は主に各学校職員等、施設設置者は主に弟子屈町役場（教育委員会）等

## 第4章 長寿命化の継続的運用方針

### 1 情報基盤の整備と活用

本計画を推進するにあたり、学校施設の状況や改修履歴などをデータとして蓄積し、適切な時期に更新することが重要となります。次の情報を適切に管理し、学校施設の状況を把握することで、今後の改修内容や時期を総合的に判断します。

各データは、施設状況に変化が生じた際や、改修、報告などが行われた際に適宜更新するほか、毎年度、更新の有無を含め内容を確認します。

情報基盤	内容等
◇学校施設台帳	・学校施設の基本情報
◇学校施設別営繕履歴	・改修、修繕の履歴（台帳）
◇定期・法定点検報告	・点検時の指摘事項等
◇学校施設実態調査	・学校からの修繕要望等（各年）
◇劣化状況調査結果	・施設の劣化状況及び相対的な老朽度の評価（概ね5年更新）

### 2 推進体制等の整備

本計画策定後も、学校施設の老朽化は進行し状況は変化していきます。

また、学校施設に求められる機能や水準も変わっていくことが想定されます。

学校施設の整備は本町の公共施設の維持管理費の中でも、多大なウエイトを占めるほか、その役割は教育の場のみならず、地域コミュニティ、災害対応（避難）等も求められます。

よって、これら学校施設の状況を把握し、多岐に渡る役割や性能の維持と課題の解決に向けては、教育委員会はもとより、関係部署との連携は欠かせません。

本計画に基づき、長寿命化を確実に実現するためには、関係部署との連携をより一層図り、推進体制を充実させていきます。

### 3 フォローアップ

本計画に基づき、効率的かつ効果的に学校施設整備を進めていくためには、PDCA サイクルを確立することが重要となります。

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、上位関連計画及び総合計画の策定の中で協議、検討を行います。

また、計画期間事業プログラムについては上記検討の際に精査していくとともに、事業の進捗状況、情報基盤から得られる老朽化に関する状況・評価などの結果、また、各学校区の子どもの数等の状況を踏まえた上で、必要に応じ見直しを行います。

PDCA サイクル	
<Plan>	① 施設の状況を把握した上で、それを踏まえた整備計画を策定
<Do>	② 計画に基づく日常的な維持管理や適切な改修を実施
<Check>	③ 整備による効果を検証し、整備手法の改善点などを整理
<Action>	④ 次期計画に反映